

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「パンフレットを読もう」 教材名「パンフレットを読もう」

2 単元の目標

比較や分類の仕方、必要な語句を抜き出して情報を整理する方法を理解することができる。目的を意識して中心となる語や文を見付け、内容を要約することができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方、必要な語句を抜き出して情報を整理する方法を理解している。（〔知識及び技能〕 (2)イ）	①「読むこと」において、目的を意識して中心となる語や文を見付け、内容を要約している。（C(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

パンフレットを読む目的を決め、見出しや図と文を行き来して中心となる情報をまとめる。紙面の順に全部写さない。学習指導要領のC(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕
(2)イを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教師の独自の学校施設案内か利用可能な実物を使う。目的に必要な見出しを選び、重要な語を残しながら自分の言葉で要点をまとめる。おおむね満足できる状況は、目的を意識して中心となる語や文を見付け、内容を要約しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○調べる目的と全体の見出しを確かめる。必要な情報のある箇所を探す。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2 （本 時）	○重要な語や文を選ぶ。短い要約で目的を満たすか確かめる。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

目的を意識して中心となる語や文を見付け、内容を要約することができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「知りたいことを短く説明するには、どの見出しと文が必要ですか」 【めあて】パンフレットを読む目的を決め、見出しや図と文を行き来して中心となる情報をまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・調べたいことの見出しを先に探したい。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「知りたいことを短く説明するには、どの見出しと文が必要ですか」 重要な語や文を選ぶ。短い要約で目的を満たすか確かめる。 読む目的、選んだ見出しと必要な語、自分の言葉による短い要約。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・調べたいことの見出しを先に探したい。 ・絵だけでは条件が分からない。 ・詳しい情報を選んで短く言い換えたい。	教師の独自の学校施設案内か利用可能な実物を使う。目的に必要な見出しを選び、重要な語を残しながら自分の言葉で要点をまとめる。 想定するつまずき：全ページの情報を同じ長さで写す、図の印象だけで説明する。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 目的を意識して中心となる語や文を見付け、内容を要約している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・詳しい情報を選んで短く言い換えたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「知りたいことを短く説明するには、どの見出しと文が必要ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

